

コロナ禍をこえて——

香川大学の今



ミスキャンパス香川大学2020
に選ばれた中尾夏美さん。

どんなときも
笑顔を決やさずに

「高松は住みやすいんだよ」と
楽しそうに話す姉が羨ましくて
わたしも岡山から香川大へ。
経済学部に進んだのは
将来の選択肢が増えると思って。

新生活に胸を弾ませていた
矢先に訪れたコロナ禍。
ガイダンスと入学式以外は
ほとんどの授業がオンラインに。
リアルで会えないから
なかなか友達もできない。
でも、後ろ向きになるのは
もったいないよね。

リモート授業では
先生やクラスメイトと
チャット機能で
気軽にやりとりできる。

数少ない対面授業の体育では
みんなと笑い合って
心も体もリフレッシュしている。
もっと友達を増やしたくて
前よりも積極的に
話しかけるようになった。
もちろん、サークルにも入った。
ずっと憧れていた軽音部。
いつかお客さんの前で
ドラムを披露する日を夢見て
先輩のプレイを参考に
今はイチから特訓中。

居酒屋のアルバイトでは
笑顔の大切さを教わった。
大学でも、ミスキャンパスとして
いつもにこやかに
香川大のよさを伝えたい。
キャンパスライフは自分次第。
前を向いて、少しずつ。



05 オンライン授業

5月からオンライン授業が始まり、パソコンを持っていない学生にはタブレットを貸与。現在、半数近くの授業は対面とリモートを併用しています。構内では、自由にパソコンとWi-Fiを利用できます。



04 手指消毒

各教室の入口には消毒液を設置。入室前には必ず手指消毒をもらうことで、拡大を未然に防いでいます。消毒液やマスクが品薄だった時期には、卒業生や企業からそれらをご寄附いただいたことも。



学長イメージキャラクター ゆきのすけ

できることからひとつずつ。
みんなで力を合わせて、
コロナ禍を乗り越えていこう！

COVID-19

香川大学の取り組み、支援について。

政府・香川県の新型コロナウイルス対策に対して、適切かつ柔軟に対応するため、香川大学の学生、保護者の皆様に向け、知っていただきたい情報を香川大学ホームページで随時発信しています。

<https://www.kagawa-u.ac.jp/24945/>



コロナウイルス対応について

新型コロナウイルス感染拡大に伴い経済的に困窮している学生に対して、緊急学生支援金を給付することとしております。引き続きご寄附を賜りますよう、お願い申し上げます。

<https://www.kagawa-u.ac.jp/kikin/>



香川大学支援基金ホームページ

上げました。5月から7月までの間に2000件以上の申請がありました。皆様方からのご寄附のおかげで多くの学生に給付できました。

香川県社会福祉協議会や、大学の近隣の方々からは食料物資をいただき、大変助かっています。健康管理センターでは、誰とも話せずに孤独を感じている学生のために、電話相談窓口を設けました。現役学生を支援するために発足した「校友会」でも、検温カメラシステムの寄贈、PCR検査の費用支援など、学生を手厚くサポートしています。

コロナ禍は困難だけでなく、前向きな変化をもたらしています。今まで受け身で聴講していた学生が、オンライン授業のチャット機能を使って意見を述べたり、受講者同士で連携を図るなど、積極的に学ぶように。広報室にも「動画の撮り方を教えてほしい」「一緒に映像を作りたい」という学生が次々にやってきます。「リスクと向き合いながら、新たなイノベーションを生み出す」。本学が掲げるDRU教育を体現する学生が着実に増えていると感じます。職員の間でも「博物館にバーチャル展示を追加して集客を増やしたい」「全国の社会人がリモートで参加できるよう大学院を整備したい」といった意見が活発に交わされています。今後は、増々、リアルとオンラインのハイブリット化が加速するでしょう。ふたつを上手に組み合わせて、進化した香川大学の姿を提示していきたいと思えます。

コロナ禍で見えた、 香川大学の新しいカタチ。

感染対策のキャンパスを一緒に見てみよう！



2020年のコロナ禍。香川大学はこの難局をどう乗り越えてきたのか。第一線で対策にあたってきた教育・学生支援部長の高嶋実さんと危機対策本部チーフの川池拓史さんにお話を伺いました。

01 パーテーション

学生相談窓口や図書館の自習スペースなどには、1席ごとにパーテーションを設けて感染予防に努めています。



02 マスク着用

飛沫感染を予防するために、校内ではマスクの着用を徹底。

03 検温

検温は原則的に自宅で行い、発熱している場合は登校を控えるよう呼びかけています。たくさんの学生が利用する生協食堂には、10名の検温結果がひと目でわかるサーマルカメラを設置しました。



迅速なオンライン化が、
大学を進化させた。

本学で最初に取り組んだコロナ対策は、卒業式です。式典は中止となりましたが、学長メッセージや思い出の写真の入った卒業動画を制作し、少しでも卒業式気分を味わえるよう工夫しました。入学式は、キャンパスごとに分散して集まり、オンラインで学長挨拶を配信。4月7日には緊急事態宣言が発令され、臨時休業を余儀なくされますが、その間は遠隔授業の準備期間に充て、教員同士でノウハウを共有しました。こうして5月7日から一斉にオンラインでの授業を開始。緊急事態宣言が解除された6月からは、リモートでは学びにくい体育と実験から対面授業を再開。サークル説明会、就職説明会、オープンキャンパス、大学祭などは対面とオンラインを組み合わせて行いました。

他大学に先駆けてオンライン化できたのは、理由があります。2012年から「大学連携e-Learning教育支援センター四国」の基幹校を務め、オンライン授業の経験を積み重ねてきたからです。「オンラインでできることはすべてやろう」という学長の迅速な判断も、大きな後押しになりました。

学生の支援にもいち早く取り組んでいます。4月から県内外のOBや企業に寄附を募り、経済的に困っている学生に1カ月3万円を給付する「緊急学生支援」を立ち